ハルビンの流動人口について

劉（リュウ）　妝（チョウ）

1. はじめに

1949年新中国を建国して以来，人口管理においては，中国はこれまでに例をみない「戸籍制度」を実施してきた。そのため地域間の人口移動（特に農村から都市への移動）は40年間にわたり厳しく抑制されていた。1980年代の「改革開放」政策の実施によって，戸籍制度は改革され，農村の人民公社も遂に解体し，2億を超える農村の過剰労働力が一挙に顕在化した。その上，市場経済体制のもとでは地域の格差が拡大する一方であるため，流動人口が大量に発生した。その結果，流動人口は都市の市場経済発展の大きなエネルギー源になると同時に，さまざまな社会問題を生じ，社会治安が悪化する重要な原因ともなっている。

本論文は中国の全国経済体制総合改革モデル都市であり，東北部最大の都市ハルビン市を調査対象地域として選び，ハルビンにおける流動人口の生活実態や，仕事環境などについて考察を行ない，他の都市の流動人口とは異なっているハルビンの流動人口の特徴を見出し，また流動人口に存在している全国に共通する問題を取り上げることを試みた。

2. 中国における流動人口の発生

中国は1949年に社会主義の国として建国して今日に至り，45年の間に大変極端な戸籍政策を行い，人口の移動（特に農村人口の都市への移動）を最小限に抑えた末，全人口のほぼ8割の人口を農村に定着させ，地域の格差が深刻になる一方であった。つまり都市人口の規模は彼らに供給できる食糧の量できめられており，政府は人口の都市への流入を一貫して禁止してきた。農村においては，人民公社が農村で増大する人口を農村内に定着させて，都市に流出させない社会的“容器”としての機能を果たしてきた。つまり中国の戸籍制度というのは，戸籍と住民票の機能とをあわせもち，かつ食糧や人事にも関連する。そのための政策的手段としては戸籍制度のほか，供給制度と，労働就業制度がある。

1980年代から行なわれたこれらの制度の改革は，中国における全国的流動人口の発生の決定的な原因となった。改革の影響は，主に以下の四つの面にあらわれている。

(1) 戸籍制度の改革と身分証明書の発行

中国の戸籍制度は「公民が農村から都市へ移転するには都市労働部門の採用証明，学校の入学証明，その上都市戸籍登記機関の移入許可証明書を持参し，常住地の戸籍登記機関に申請して転出手続きを取らなければならない」（「中国戸籍管理条令」1973年）と厳しく制限している。また「公民が常住地以外の地方に旅行や出張などによって行う短期滞在にも，戸籍または常住地の政府によって発行された証明書を携帯しなければならない」（出所：同上）。

戸籍制度の改革を促した二つの要因があった。ひとつは，地方政府が資金づくりのため非農業戸籍を高値で売出し，農民がそれに殺到したことである。もう一つの要因は，生活必需品の「供給制度」が廃止されたことである。1980年代初期の「経済改革」のもとに私有経済がある程度の範囲で許されたことによって，供給制度対象商品の自由売買ができるようになり，特に農民の所有する農産物の売買が自由化されたことで「供給制度」を全面崩壊に向かわせたのである。それにより，人口の自由移動がようやく可能となった。

戸籍制度の改革と身分証明書の発行は，1980年代の人口と戸籍の分離という現象を生じさせ，流動人口の形成の重要な原因となった。

(2) 沿海経済特区の開発と全国的都市化の進行

1980年代の開放体制によって全国的に市場経済体制への移行が急ピッチで進み，新しい経済政策に基づく経済発展のモデル都市としてつくられた深圳経済特区の成功に続いて，新たに沿海地域8都市が経済特区として開発をはじめ，内陸部の大・中・小都市の都市化も急激に進行しはじめた。

12億の消費者と豊富な自然資源を持つ巨大な発展途上国である中国は，経済体制の改革にともない世界中の注目を集めた。それと同時に海外から大量の投資が殺到した結果，各大中都市では1980年代後半から経済発展と都市建設が盛んに行なわれている。こうした状況の中で大量の労働力が必要とされ，農村人口の都市での正式就業が可能になったうえ，農業人口が都市で働く機会も増加した。

(3)　農村における「土地承包制」の実施と人民公社の解体

1984年以後「改革開放」政策のもとに，農村での農業経営体制の改革も行なわれ，「土地承包制」を実施し，建国当時「人民公社単位での農業共同生産体制」に変えられた中国伝統の農業経営方式「小農経済」のような，「農業生産個体化，農業生産分散化」が実現した。農民は家族単位で自分の労働力にあった面積の土地を村から借り受け，契約通りに播種した農産物の収穫の一定量を村に納めれば余剰分は全部自分のものになる。これによって農民にある程度の利益を与え，農民が積極的に働くようになり，農業生産効率も向上し，余剰農産物を自由に売買することができるようになったのである。

一方「農業共同経営体制」の時代に人民公社の集団労働のもとに隠されていた過剰労働力が「土地承包制」を実施することによって一挙に表面化した。その上人民公社時代，農村人口にとって仕事がどんなに少なくても皆平等に働き，食糧なども平等に分け合って生活していたため，働かなくてもある程度の生活が保障されていた。人民公社の解体にともないこういった生活の保障が一気になくなり，農村では余剰人口の生活問題が遂に出てきてしまった，この過剰人口は出稼ぎに都市へいくしか他ないといえよう。

(4)　「一人っ子」政策への抵抗と「戸籍のない子」

新中国を建国以来，政府が誤った人口政策を実施していたため，中国の人口が急増し，1949年から1987年にかけてのわずか38年間に，人口は5億4,167万人から10億9,300万人へと倍増した。こうした中で1980年3月から止むを得ず「一人っ子政策」を実行することになった。そのため二人以上の子供を生んだ場合，都市では減俸や職場を追われるなどの処分を受けさせられ，農村では高額の罰金を払わせられてしまう。その上戸籍を取得することは極めて難しい。こんな圧力があっても，子どもがほしいという気持ちがおさまらない夫婦が依然として大勢いる。これら計画外の子どもがほしい家族は，子どもを生むために厳しい出産管理の網の目から逃げて，農村から都市へ，都市から都市へと流動する他はない。こういう目的で移動する人口は流動人口の中で相当に大きな割合をしめている。

3.　ハルビン市の概要

ハルビンは北緯45°20′～46°20′東経126°15′～127°30′にあり，黒竜江省の南西部，松嫩平原の東部に位置している，地勢は南東から北西へと傾斜し，平均海抜高度は151mの平坦な地形である。気候は温帯大陸性季節風気候に属し，冬が長く夏が短い，四季の変化が大きく，はっきりとしている。全年の結氷期は190日となっているので，「氷城」とも呼ばれている。

ハルビンの全市人口は5,267,712人，総面積は18,376㎢で，7つの区と4つの県，そして1つの市で構成されている（表1参照）。

第1表　性別人口と産業別人口およびそれらの地域的分布

	全　　市	七　　区［%］	四県・一市［%］
男　性	2,676,538	1,436,514［54］	1,240,024［46］
女　性	2,591,174	1,407,194［54］	1,183,980［46］
農　業	2,196,539	386,831［18］	1,809,708［82］
非農業	3,071,173	2,456,877［80］	614,296［20］
合　計	5,267,712	2,843,708［54］	2,424,004［46］

（「ハルビン統計年鑒」中国統計出版社，1992年により作成。）

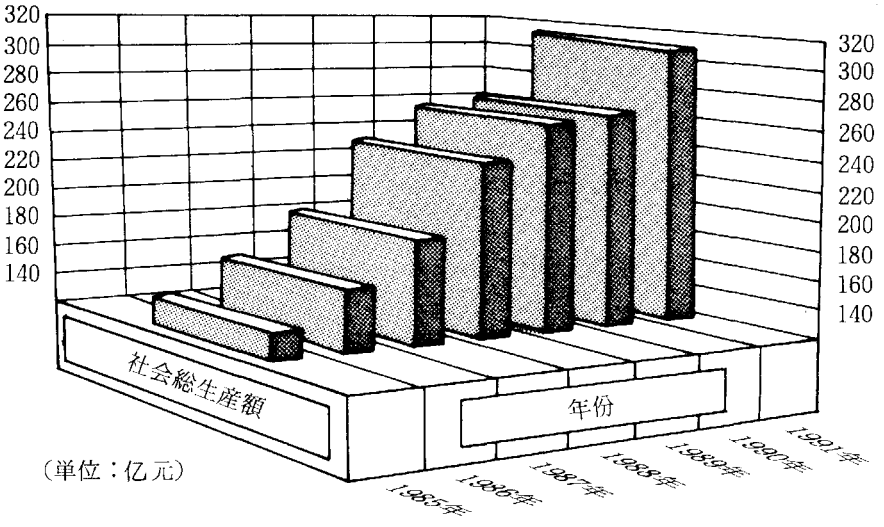


図1　社会総生産額

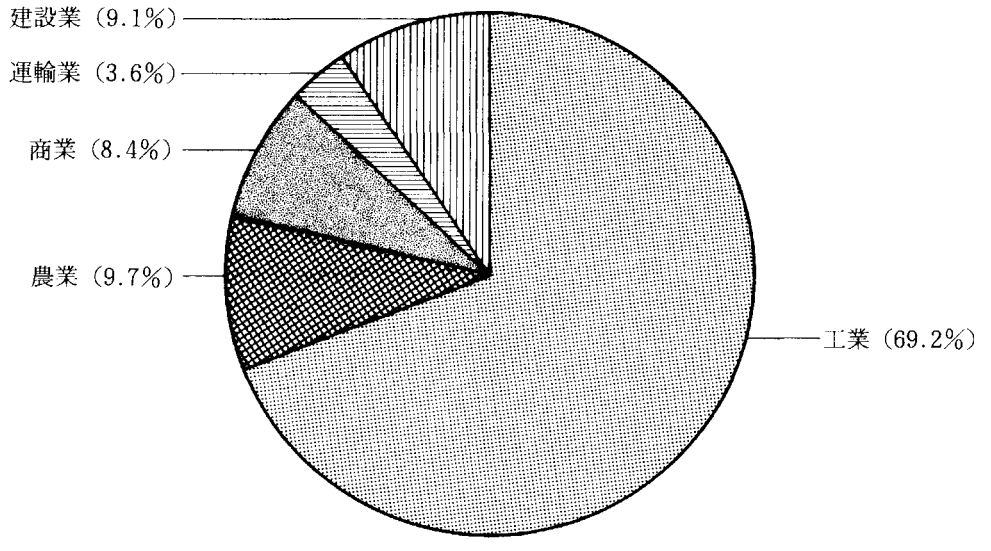


図2　1991年社会総生産額構成

（いずれも『ハルビン統計年鑒』1992年）

ハルビンは1949年の新中国建国以前は単なる消費都市であったが，建国後に国家の重要建設都市に指定されて大規模な経済建設が行なわれ，現在の大工業都市に成長した。主な産業は大型モーターや蒸気機関などの動力設備から，精密計器，加工材料，大型農業機械，自動車産業，国防機械，各種の錦・ウール・麻・シルクなど繊維製品，各種日用品まで生産している。特に電機工業は全国の最大規模を持ち，動力区は動力の郷だと全国的に知られている（第1図・第2図を参照）。

ハルビン市は1980年に対外開放を開始したが，とくに1980年代の半ばになってから，国際情勢の変化により，地縁や資源の優位性から出発して黒竜江省は「南部各省と提携し，北部の旧ソ連に同省を開放する」という全方位的開放方針を打ち出した。こういう方針を実施することでハルビンの対外開放は著しく進展を見せた。1992年末の段階で，世界の120余りの国や地域と経済・貿易関係を結び，対外貿易輸出入額は4億8,035万ドルに達していた。1990年から連続して4回にわたり「中国ハルビン国境経済貿易商談会」を開催して成功を収めている。1993年度商談会の総達成額は70億ドルを超えるという。

北東アジア経済圏の心臓部に位置しているハルビンは地理的にも歴史的にも，他の都市では追い付けない程よい条件に恵まれている，これを利用し中国東北部最大の国際的商業・貿易・金融の中心都市を目指し，南部の広州，華東の上海，華北の北京と並ぶ中国の経済網の支柱都市となることを計画している（『前進のハルビン』ハルビン教育出版社，1990年）。

4. ハルビンの流動人口の実態

今回は106人を対象に流動人口の実態調査を行なった。調査対象は筆者の住む地域の近辺に活動している者を主としている。調査方法としては町に出て調査対象者に直接話を聞くという方法を取った。年令・出身地・家族人数・元の職業・収入支出など，流動人口の生活状況，仕事環境，そして抱える問題などに関する20の質問を行い，ハルビン市の中心部の道里区，南岡区，香房区の3つの区でデータを集めることができた。この調査を通してハルビンに実在している流動人口の生活実態およびその問題を探ってみたい。

(1) 出身・性別・年令からみた流動人口

今回の調査対象となった106人のうちの94人は外省出身者であり全体の88.7%と圧倒的に多く，しかもその出身地域は，広く黒竜江省を除く9ヶ省と1ヶ国（ロシア）に及んでいる。

性別と年令をみれば男性が多く，ほぼ女性の倍になっている。男女ともに20～40歳代が最も多い年齢層である。特に女性未婚者の年令は全員25才以下であり，最低年令は14才となっている。婚姻状況をみると全体の65%の69人が既婚者で，男性は64人，女性はわずか5人しかいない。これに対して男性既婚者の64人のうち家族連れで来ているのは16.6%で10人となっており，女性既婚者5人が全員家族連れで来ていることに驚かされる。これはハルビンの流動人口のひとつの大きな特徴といえる（第2表参照）。

(2) 流動人口の学歴・戸籍種類と現在の職業および収入

流動人口の平均学歴は低く，今回の調査対象となった106人のうち高校以上の学歴を持つのはわずか3人で，小学校卒は48人，中学校卒は58人という，実質上のレベルは極めて低いことが想像できる（第3表参照）。

戸籍種類を見ると，農業戸籍を有する者は103人で全体の97.2%を占めている。すなわち流動人

第2表　流動人口の出身地と婚姻状況

	出身地域		婚姻状況			
	省外	省内	既婚	未婚	家族連れ［%］	合計
男	67	7	64	10	10　［14］	74
女	27	5	5	27	5　［16］	32
計	94	12	69	37	15　［14］	106

（聞き取り調査の結果により作成。以下同様。）

口の97.2%は農村から来た人であるといえる。さて，流動人口の現在の雇用状況については，第3表で「自営」と「臨時雇用」の二つに分けてみた。自営の人は13人で全体の12.3%となっている。一方臨時雇用の93人の職業は以下の順となっている。建築業，各種の職人，工場の臨時従業員，レストランのウェイトレスそして一般家庭の家政婦（主に女性）など，である。建築業は最も多く臨時雇用の約60%を占めている，建築業のほとんどは契約制であり，季節仕事で冬は暇になるため，ハルビンの冬の厳しい寒さに堪えられない流動人口の都合には最も適しているともいえる。

収入と支出は職業によって大きな差がある。まず自営の場合は月平均収入は2,439元で，月平均支出は900元となっている。かなり高いレベルに達している。一方臨時雇用者の場合は月平均収入は708元で，月の平均支出は248元となっている，自営と比べればかなり低いレベルに落ちている。しかし食事付きの住み込みで働く人が多いため，支出は収入の1/3以下に抑えている。

(3) ハルビン来住の目的，来住後の生活の変化

流動人口が流動する主な目的は資金を稼ぐためといってよいが，決してそれがすべてではない，調査の結果によれば以下の4つにまとめられる。

1. 現金収入の獲得　77人（72.6%）
2. 計画外の子供の出産　13人（12.3%）
3. ハルビンで結婚して定住したい　10人（9.4%）
4. その他　6人（5.7%）

来住後の生活の変化については「ハルビンに出稼ぎに来てから実家の生活がよくなった」と答えた者は99人で全体の93.4%を占めている。「都市の仕事がいくらきつくても，やはり農業の仕事より楽だ，その上収入は何倍，極端にいえば何十倍も違う時もある」という人も64人いる。「ハルビンは大きくてきれい，農村の生活よりずっと楽しい」という者は25人いた。

(4) ハルビンの流入人口の移動パターン

ハルビンの冬は長く，寒さが厳しい，これによって流動人口の移動パターンは他の都市とは異なっているところがあり，また移動流動人口の出身地や，性別などによって移動パターンが大きく変わってくる（表4を参照）。

まず出身地別でみると，省内出身者の12人のうち11人までが長期（1年以上）にわたってハルビンで働いている。「定期季節」（毎年同じ季節に出稼ぎに来ること）はただ1人しかいない。省外出身者の場合は94人のうち「長期」というのは30人で，「定期季節」は60人となっている。

一方性別でみれば：男性74人のうち「長期」は12人で16.2%に過ぎず，それに対して女性32人のうち「長期」は29人で90.6%という高い比率となっている。この結果をまとめれば，第一に，毎年同じ季節に出稼ぎに来るのは外省出身者と男性が多く。第二に，「長期」は省内出身者と女性が多いという強い特徴がある。

第3表　流動人口の戸籍種類・学歴・雇用形態

戸籍種類	農業	103	学歴	小学校卒	48	雇用形態	自営	13
	非農業	3		中学校卒	58		アルバイト	93

第4表　ハルビン来住の経緯と移動パターン

		合計	知人あり	初めて来住	定期季節	長期	他
省内	男	7	3	0	1	6	0
	女	5	0	3	0	5	0
省外	男	67	49	2	58	6	3
	女	27	5	19	2	24	1
合計		106	57	24	61	41	4

(5)　流動人口の生活と今後の予定

聞き取り調査の結果だけをもとに，流動人口の生活を見るのは極めて難しいことであるが，ここでは住宅や子ども問題，娯楽などの面と今後の予定について探ってみることにした（第5表参照）。

まず住宅状況をみれば，男女ともアパート住まいが多く，全体の83%を占めている。寮住まいは男性が6人で女性は8人の計14人である，女性の職業は家政婦という住み込みの仕事が多いので，男性より寮住まいが多いという特徴が見られる。

今後の予定については，ハルビンに定住したいという割合は女性が圧倒的に多く28人で，回答者数の87.5%を占めている，これに対して男性は14人で，18.9%に過ぎない。原因は前にも述べたように男女の年令や目的，そして職業などが異なっているからである。故郷に帰る予定でいる人はわずか4人である。これに対して「その他」の欄の人数が全体の半分を超え60人となっている，この60人の約5割の人が「とりあえず今のままでいたい，最終的にどうするのかはまだ考えていない」というものである。このほか「仕事の都合による。仕事が順調であればずっとハルビンにいるつもりだが，そうでなければ他の地方に行く」などという回答になっている。

さて流動人口の仕事以外の生活，いわゆる生活の中の余暇について触れてみたい。定期的に休みがあるというのは34人で全体の32%と少数である。余暇の過ごし方については以下の5つにまとめられる。

1. 寝る
2. アクション映画を見にいく
3. 繁華街でぶらぶらしている
4. たまにはトランプや将棋などをやる
5. たまに雇い主の家でテレビをみる

この結果から流動人口の都市での仕事は不安定で，生活上に保障がないという精神的な圧力を感じさせられる。

(6)　流動人口における問題，または期待していること

流動人口は地元を離れ，全然知らない都市で慣れない生活と仕事を始めるので，困ることが当然あると考えられる，しかし結果的に約半分の57人が「困ることがない」と答えたのはやや意外であった。以下は49人の「困ること」の答えで，多い順に問題を挙げたものである。

1. 仕事がなかなか見つからない
2. 住むところが見つからない
3. 病気（解雇されるのが心配）
4. 雇い主との関係が難しい
5. 住むところで食事が作れない
6. 寒い
7. 子どもの世話ができない

期待していることを見ると，雇用機会と待遇はハルビン市戸籍を有する者と同じにしてほしいという願望が最も強く，ほかに生活環境の改善などが挙げられた。

この結果から，流動人口の生活と仕事環境を少し伺うことができ，流動人口の生活が如何に厳しいかが分かる。

(7)　流動人口の社会への影響と政府側の対応

大量の流動人口の発生によって，都市と農村の交流が促進され，農村人口の生活にはある程度の改善がもたらされた，そして都市化の進行と市場経済の発展に重要な役割を果たしている一方，いろいろな社会問題が起こり，都市の治安が悪化し，交通混乱が生じ，都市の失業者を急増させている問題があるといわれる。

今回ハルビンの流入人口に対して調査を行なうと共に，ハルビン市の住民12人（30歳代～60歳代の筆者の知人または近所の住民）を対象に，流動人口の存在をどのように考えるかについてアンケート調査を行なった，その結果は以下のように

第5表　住宅の状況と今後の予定

	住宅			今後予定		
	寮	アパート	その他	定住したい	故郷に帰る	その他
男	6	65	3	14	3	57
女	8	23	1	28	1	3
計	14	88	4	42	4	60

なっている。

1. 生活が便利になった
2. 周りに知らない人が増えているので不安
3. よく働くので助かる
4. 普通家庭のいらない日常用品や洋服などを買ってくれるので助かる

一方，農村においては出稼ぎ人口は定期的に実家に送金をしているので，農家の生活は改善され，そして送金の大部分は農業用機械や肥料などに充てられて，農業生産力を高めている。

さて，流動人口の発生によってさまざまの社会問題が起きたが，最も深刻な問題を以下の５つにまとめてみた。

1. 計画外出産：これは政府を最も悩ませている問題でもある。人口が急増している中国にとっては，「一人っ子」政策を実施していても，毎年依然として千万単位で人口が増えているにもかかわらず，公式に発表されている総人口の12億以外に，闇人口（戸籍のない人口）が２億人以上いるといわれている。この２億人以上の闇人口の90％が計画外出産の結果であるという。
2. 犯罪問題：ここ何年間かに流動人口による犯罪が急増した。ハルビンの犯罪の約70％は流動人口によるものであることがハルビン警察署1993年の報告で明らかにされた。その中で最も多いのは人身誘拐売買事件である。続いて窃盗事件，強盗事件，賭博などという順になっている。
3. 都市人口の失業問題：流動人口の急増によって都市各業種の競争が激しくなり，都市失業人口も急増している。中国労働部の統計によると，1994年の１月から９月にかけて全国で失業補助金を受けている人数は130.1万人に上り，正月までの間に新たに160万人が増えると予測している（「晨報」1994年11月18日）。
4. “闇っ子”の教育問題：統計によれば，ハルビンの臨時戸籍人口はすでに20万人を超えた（「北方時報」1994年８月４日）．臨時戸籍のない人口を含めて，「闇っ子」の詳しい数の統計はないが，相当の人数がいるといわれている。これらの子どもは幼稚園や学校などに行けず，親の仕事場に置かれたり，ひどい場合には仕事のお手伝いにされていることさえある。
5. 童工問題：民間企業や個人経営者などが，利潤を求めるあまり，一般の労働者より賃金の安い15才以下のこどもを雇う例も増えている。

流動人口の発生は経済改革の必然の産物であり，市場経済体制にとっては大きなエネルギーでもある。市政府は流動人口の社会への貢献を評価し，流動人口には便宜を与える方針である。そのための措置として次のことが挙げられる。

1） 本市で務めている証明書を有する者には臨時戸籍を発行する。
2） 臨時戸籍を持つ者であれば個人営業許可証を発行する。
3） 出稼ぎにきた人を対象に相談所を設ける。
4） 無職の流動人口を対象に収容所を設置し，定期的に故郷への送還を行なう。

5. おわりに

今回の調査はハルビン市の中心部の住宅地を中心に，106人を対象として行なった。その結果，女性よりは男性が多く，季節にあわせた単身で短期の出稼ぎ者が多いという特徴が見出された。そして問題としては以下の三つが挙げられる。1） 政府側においては流動人口を対象とした社会保障制度が不完全である。2） 一般社会の認識の上では流動人口に対する偏見が依然として強い傾向にある。3） 流動人口自身の文化的素養が低いため，童工の出現と「闇っ子」の教育問題が深刻になる一方である。今後，流動人口の社会地位の向上，そして全体的な義務教育の普及が二つの大きな課題として重視される必要があろう。

文献

1. 「中国統計年鑒」中国統計出版社，1993年
2. 「ハルビン統計年鑒（1986年～1993年）」中国統計出版社
3. 「前進のハルビン」ハルビン教育出版社，1990年
4. 「ハルビンの40年」ハルビン教育出版社，1986年
5. 「ハルビン史略」ハルビン教育出版社，1989年
6. 若林敬子「中国　人口超大国のゆくえ」岩波書店，1994年